

## 光応用研究開発チャレンジは、楽しすぎて、とめられない！

The Optical Application Research and Development Challenge is too much fun to stop!

合同会社HOLOMEDIA, 堀米 秀嘉

HOLOMEDIA LLC, Hideyoshi Horimai

E-mail: h-horimai@holomedia3d.com

高専に進学する学生は、比較的、ものづくりが好き人が多いように思う。私も、父と兄の影響もあって、家の父の作業場のなかの工具にワクワクし、兄の得意な電子工作にマジックを観るような楽しさを覚えた。そんななか、中学生の時に UFO（未確認飛行物体）の話題にハマり、まだ世の中に無いものなら、自分の手で空飛ぶ円盤を作りたいと思い、それに必要な技術や学問を早々と学ぶために八戸高専への進学を選んだのが、私のエンジニアの道の始まりである。高専卒業後に大学へ編入し、空飛ぶ円盤のヒントを掴みたいという思いから磁性研究室を選んだ。その時の研究テーマがアモルファス垂直磁性薄膜への光磁気ホログラフィー記録であり、そのあとソニー株式会社に入社して、気がつけば、空は飛べないけれど録音する円盤（光磁気ディスク）の研究開発に没頭していた。発明という響きが好きで、誰かが「それは出来ない。無理だ！」と嘆く言葉を聞くたびに、「それは俺の仕事だ！」とインスピレーションが湧き、ブレークスルー技術を考案しては特許を書きまくっていた。その特許の一つが、後の Mini Disc の実用化に繋がった。



しかし、自分の研究開発の好奇心を抑えきれず、無謀にも、長年お世話になったソニーを飛び出し研究開発特化型のベンチャー企業の実設を行った。



ホログラム技術 と 光ディスク技術 を融合させた、初のホログラフィック光データストレージシステム

基礎研究から商品化開発までのプロセス

はとても大変ではあったが、7人の小人たちが屋根を支えている本社（某映画会社）に招かれて、技術的なディスカッションをしたときは、エンジニア冥利に尽きるなと思った。

現在は、3次元立体映像装置や、ホログラムを薄いフィルムにプリンターのように手軽に露光印刷する装置の商品化技術、某アニメのキャラクターが掛けているスカウターを真面目に実現する技術などなど、世の中にあったら楽しいだろうなあとと思われる技術を研究開発中である。

### 360deg View 3D Display : Holo-Table



光を応用した研究開発チャレンジは、私にとって楽しすぎて、まだまだとめられません！